

第2回 今後の社会資本のあり方に関する懸賞論文 受賞論文を発表します

令和6年3月1日
一般財団法人国土技術研究センター

一般財団法人国土技術研究センターでは、2017年と2021年に実施した「社会資本に関するインターネット調査」の結果を活用して、今後の社会資本整備のあり方や論点などを明らかにされることを期待して懸賞論文（第2回）を募集しました。

審査委員会による審査の結果、一般の部は最優秀賞1編と優秀賞1編、学生の部は優秀賞2編と佳作1編の受賞が決定しましたので、以下の通り発表します。

◆一般の部 最優秀賞

「Well-Being 社会実現に向けた地方創生と社会資本の在り方に関する考察」
鹿島建設技術研究所サスティナブルソサエティラボ 三浦 奈都さん

◆一般の部 優秀賞

「厳しい財政状況下における住民の視点に配慮した老朽化橋梁の集約・撤去に向けた一考察」
一般財団法人災害科学研究所 原田 紹臣さん

◆学生の部 優秀賞

「インフラ充足度が日本の将来予測に与える影響と地域格差」
南山大学経済学部経済学科 千種 莉央さん
石川 楓さん
久保田 咲紀さん
西井 萌々香さん

◆学生の部 優秀賞

「政府と国民の意識の違いに着目した社会資本のあり方の考察」
広島大学先進理工系科学研究科 松下 貴哉さん
井戸川 昌樹さん
広島大学工学部第4類 神崎 堯斗さん
益田 大世さん

◆学生の部 佳作

「人口減少下における社会資本整備」
南山大学経済学部経済学科 青井 拓海さん
林 尚吾さん
森 一馬さん
中谷 光希さん

※ご所属は論文応募時のものです

◆石田 東生 審査委員長の講評

受賞されたみなさま、おめでとうございます。
本懸賞論文は、多くの方に社会資本整備（インフラ）に興味を持って頂きたい、貴重な調査データを活用頂きたいという想いで、土木学会、みなと総合研究財団と連携し、企画したものです。
第2回となる今回は、第1回に比べて、企画の意図を汲んだ質の高い論文の応募があり、一般の部より最優秀賞1点、優秀賞1点を表彰させて頂きました。
また、学生の部ではインフラ分野だけでなく経済分野から応募があるなどの関心の広がりや、Chat-GPTを調査手法に取り入れるなどの意欲的な取組が見られたことを評価し、優秀賞2点、佳作1点を表彰させて頂きました。
社会資本・インフラは私たちの生活経済社会の営みにとって不可分な存在です。今の私たちの暮らしの「あたりまえ」を支えているインフラに、これからも多くの興味・関心を持って頂くことを期待します。